

親の会だより

第105号 発行日 令和5年2月17日

発行 岩手県ことばを育む親の会

会長 主濱 友子

事務局 盛岡市立桜城小学校きこえとことばの教室内



新しい年を迎えて早「立春」。暦の上では春ですが、まだまだ春遠しです。今年は卯年、大きく成長する年、飛躍の年ともいわれています。この3年間の世の中はコロナ禍に加え、昨年来のウクライナ情勢、物価高騰等々の問題山積でしたし、私たち親の会行事も思うように開催できませんでした。このようなことが少しでも解決し、明るい展望が開ける年であってほしいものです。

親の会は今年、6月24日に第51回岩手県ことばを育む親の会大会北上大会を開催します。地元の皆様は、「コロナ」収束を願いつつ様々な感染対策を講じながら開催に向けて準備を進めているところです。各支部におかれましては、大会成功に向けて会員参加及び負担金のご協力をお願いいたします。

さて、これから今年度末に向かいます。各支部或いは、各教室での活動も残すところあと僅かになりました。日頃お世話になっている校長先生、関係機関等には足を運びご挨拶をお願いしたいと思います。

私たち親の会は、今後も、子どもたちのために「だれでも・いつでも・どこでも」必要な教育を受けられるよう環境を整え、また、お互いに悩みを出し合う場を大切にして活動の活性化を目指してまいります。今後とも宜しくお願い致します。

会長 主濱 友子



県親の会 ブロック研修会

今年度は、3年ぶりに県内3つのブロックで研修会が行われました。講演会や交流会などを行い、各支部の活性化や会員の意識の向上に役立つ研修会となりました。

各ブロックの研修の様子についてお知らせします。

盛岡A(盛岡・滝沢・雫石・紫波・矢巾)

<活動日> 11月20日(日) <場所> 盛岡市立杜陵小学校

<参加人数> 32名

<内容> 講演と交流会

演題「ことばを育む親の会の歩み そしてこれから」

講師 県親の会参与 津川 哲二氏



津川先生の講演から、ことばの教室に対する親の会の思いや活動することの大切さを改めて認識でき、とてもよい機会になった。

交流会では、巡回指導の必要性や親の会の行事を工夫して行っていくことなどが話題になった。

盛岡B(八幡平、岩手、葛巻)

<活動日> 10月16日(日) <場所> プラザ あい(沼宮内駅内) <参加人数> 8名

<内容> 学習会(県親の会釜石・大槌大会DVD視聴)と交流会

コロナ禍において活動の制限がある中、各支部とも工夫しながら活動している様子を交流できた。互いの思いを聞くことができたことと、いろいろな経験を聞くことができたことで勉強になった。これからも親同士集まって話す場を大切にしていきたいと思う会になった。

県北A(久慈、洋野)

<活動日> 12月10日(土) <場所> 久慈市立久慈小学校

<参加人数> 親子…12組 担任・役員…13名

<内容> 折り紙貼り絵作品制作とミニ交流会(親…学習会 子…なかよし会)



学習会では、久慈幼児ことばの教室担当の橘りつ子先生から「ことばの教室の沿革とあゆみ」についてお話していただいた。「乳幼児のことばの発達、ことば遊び」についても資料を提示していただき、勉強になった。子どもたちは、絵本の読み聞かせやカルタ遊び、紙風船などをして遊び交流できた。

令和4年度岩手県との意見交換会

令和4年9月22日 岩手県と障がい者関係団体との意見交換会が「ふれあいランド岩手」に於て開催されました。親の会からは7項目の意見要望を提出しました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため一団体から一項目、限られた時間内での発言が許され1番4番項目を重点にお尋ねしたところ、「教員の研修経験者を総合的な観点から配置をしている。また、ニーズに応じた研修法を工夫し、今後も継続して取り組む。」とのことでした。そのほかの項目についても県教育委員会及び保健福祉部から回答いただいております。概要は次の通りです。各支部の市町村教育委員会への要望活動等の参考にしてください。

1. 通級指導教員の基礎定数化措置と、通級指導教室への教員配置について

通級指導教室への教員配置を「教員定教法」にそって早期に整備し「通級による指導」に必要なだけの教員の配置をこの2、3年で達成するようお願いいたします。また、定数化決定から5年となりますが、現在の進捗状況をお教え願います。

併せて、通級指導教室への教員配置が講師で充てられている地域や学校を早期に解消し、研修経験者や経験豊富な専門性のある教員による指導体制の確保をお願いします。

〈 学校教育室 教職員課(追記) 〉 通級による指導については、全県の対象児童生徒数を基に教室・教員数が算定されるものとなっております。今後とも国の動向に沿った形で進めていきたいと考えております。また、指導する教員については、研修経験を含めた総合的な観点から任命・配置して参ります。

2. 幼児のための教室設置と教育の充実について

幼児のことば・きこえの悩み相談を通じて早期発見は早期支援を可能とし、様子の改善や小学校入学時の支援につながります。その役割を担う幼児教室の設置効果を未設置町村にご紹介いただき、県内すべての町村に幼児教室の設置が促進されますよう、引き続きご支援をお願いします。

〈 学校教育室 〉 幼児を対象とした「きこえとことばの教室」は、市町村が、特別な支援を必要とする幼児の相談、支援体制の一環として設置しているものであります。形態は様々であり、療育教室の中でその機能を果たしているケースもあります。県教育委員会におきましては、総合教育センターにおいて専門的な研修講座を設置しており、幼児のための教室担当者や、今後担当者となる方に活用いただいております。今後も引き続き地域の実状を踏まえながら、適切な相談・指導が受けられるよう、必要に応じて連携・支援を行って参ります。

3. 巡回指導について

様々な事情により通級指導を受けたくても受けられない子どものために、巡回指導の重要性が高まっています。巡回のための移動時間も考慮したうえで、指導人数に見合った担当教員の適正な配置をお願いします。また、巡回先で効果的な指導が行われるように、指導室の環境や教材等の整備をお願いします。

〈 学校教育室 〉 通級による指導を行う教室については、自校通級、他校通級、巡回指導という形態の中から、市町村の実状に応じて形態を選択したり、組み合わせたりしながら、進めているところです。今後も、学びの場の確保や教材の活用など巡回指導の在り方も含め、適切な指導が行われるよう、必要に応じて支援を行ってまいります。

4. 特別支援教育に関わる担当教員の更なる研修について

子どもたちの多様なニーズに対応できるように担当教員の専門性や指導力を高めるための研修の継続と充実をお願いします。また、特別支援教育への理解と適切な指導・支援がさらに充実するよう、全教職員対象の研修もお願いします。

〈 学校教育室 〉 県教育委員会におきましては、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の各校種の教員に対して、特別支援教育に関する研修を進めております。今後も研修のニーズに応じた研修内容や方法の工夫を図りながら、継続して取り組んでいきたいと考えております。

5. きこえとことばの教室の環境整備について

通級指導教室へ、環境と設備の配慮をお願いします。近年の猛暑時においても外の音等に影響されない指導を行うために、通級指導教室への普通教室と同様のエアコン設置をお願いします。障がいのある子ども、ない子ども共に学ぶ場でありながら、基礎的配慮が市町村によって異なっているように思います。また、タブレットやデジタル補聴システム（ロジャー）等の子どもの必要性に応じた設備の充実をお願いします。

〈 学校教育室 〉 通級指導教室の適切な運営を進めるうえで、環境整備や設備の充実は必要なものと考えております。学校や地域の実状を踏まえて対応できるよう、必要に応じて市町村に情報提供を行って参ります。

6. 幼稚園・保育園の先生、保健師の方々のための研修講座の充実について

教育相談の大半は幼児の相談です。日々の養育や健診に当たる幼稚園、保育園の先生、保健師の方々による早期発見は、幼児教室での早期の支援につながります。当親の会では毎年幼稚園・保育園の先生方を対象に「幼児期の言語教育研修講座」を開催していますが、今年度第 37 回となる研修会への参加申込の様子から、そのニーズは高く、今後も続くものと考えています。コロナ禍により中止せざるをえませんでした。今後も開催し、「幼児教室」「きこえとことばの教室」「LD等通級指導教室」につないで参ります。

本研修会等、幼稚園・保育園の先生、保健師の方々のための研修の充実についてご支援をお願いします。

〈 学校教育室 〉 県教育委員会では、県保健福祉部と連携しながら、幼児のための教室や、きこえとことばの教室についても周知を図っているところです。今後も、貴団体が開催する研修会への協力も含めて、幼児期及びきこえとことばの教室に係る特別支援教育の充実を図って参ります。

7. 障がい者手帳が交付されない「難聴」や「吃音」等の子ども達への環境の充実と助成について

障がい者手帳が交付されない難聴、吃音等の子どもたちの就労について、早い段階からの情報収集と就労までの環境の充実をお願いします。また、軽度・中等度難聴児への補聴器購入や修理代の公費による助成の継続をお願いします。

〈 保健福祉部 〉 障害者就業・生活支援センターは、障がい者の就業面及び生活面における一体的な支援を行い、生活上の相談等に応ずるなど就業及びこれに伴う日常生活又は社会生活に必要な支援を行っております。障がい者手帳が交付されていない場合でも相談可能になっておりますのでご活用ください。

〈 障がい保健福祉課 〉 県では平成 24 年度から、市町村が障害者総合支援法による補装具費の給付対象とならない児童の補聴器購入への支援を行った場合、その経費に対して補助しているところです。

また、修理費用についても令和元年度から市町村への補助対象としたところであり、今後も継続できるように努めていきます。

令和4年度 NPO 法人全国ことばを育む会東北ブロック研修会・代表者会議開催

1 期 日 令和4年 11月12日(土)・13日(日)

2 会 場 いわて県民情報交流センター (アイーナ)

東北ブロックの青森・岩手・宮城・福島の親の会役員が集い、研修会代表者会議が3年ぶりに岩手県で開催されました。

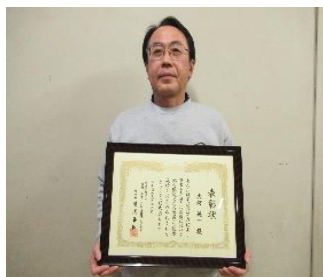
11月12日は、「全国親の会の歩みと東北ブロック」と題して、東北ブロック顧問 菊池義勝 先生(岩手県ことばを育む親の会相談役)にお話ししていただきました。講話では、仙台市と千葉市からはじまった全国におけることばの指導の黎明期から昭和39年の「全国障害児を持つ親の会」結成、平成16年のNPO法人化(NPO法人全国ことばを育む会)とブロック体制の確立等を経て現在へと続く活動の歴史、また東北ブロック結成の流れ等についてお聴きし、研修を行いました。その後、令和7年度第30回全国大会の東北ブロックでの開催等について意見交換を行いました。

11月13日の代表者会議では、全国の会の本年度の活動報告と各県の活動状況や課題等についての情報交換を行いました。





祝 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構理事長表彰受賞



「やまびこ会（岩手県難聴者の会）」の大坊英一さんは、現在は、中山の園内にある「障害者支援施設つづじ」にご勤務され、施設運営や入所されている利用者への日常生活支援に関わっています。昨年9月に、35年6か月の永年勤続と多種福祉施設にて福祉に従事したことが評価され、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構理事長表彰を受賞されました。これは、障がい克服して模範的な職業人として勤務している方に対して表彰を行っているものです。

大坊さんは、「障がいを持ちながら、ここまで福祉の仕事をやれるとは思っていませんでした。今回の受賞は、自分だけではなく、障がいを理解してくれた職場の上司や先輩、同僚、部下の支えがあっての受賞でした。感謝の気持ちでいっぱいです。」と話していました。仕事をしていて大変だったこととお聞きすると「耳に障がいがあることから電話の対応や相手とのコミュニケーションに苦慮しています。特にコロナ禍ではマスクを着用しているため聞き取り間違いが生じて話がかみ合わないこともあります。そんな中でも、障がいを分かってくれている人は、マスクを外して話したり、筆談したり、電話の対応を代わってくれたりしてくれます。」と話していました。

子どもの頃は人見知りが強くて内気な子だったという大坊さんですが、長年に渡り「やまびこ会」を先に立って進めてくださり、県親の会の合宿研や学習会等の行事にもたくさん協力していただきました。今回の受賞をお祝いするとともに、これから益々ご活躍されますことをご期待申し上げます。

「すっぴんの会」(吃音がある子とその保護者の交流会) 開催

〈期日〉 令和5年1月28日(土) 〈会場〉 いわて県民情報交流センター「アイーナ」

昨年度はコロナの影響で残念ながら中止となりましたが、今年度は参加者を絞り(保護者と先生方)感染対策をして開催しました。県内各地のことばの教室、幼児教室から、保護者10名・先生16名・スタッフ(講師、OB保護者、親の会)13名、計39名が集まり交流しました。内容は、体験談と語り合いです。

○ 体験談(全体)

演題 「吃音の子どもたちの力になるためには?～当事者の目線から～」

講師 種綿 鼓動 先生

ことばの教室で学んだ経験と保護者の支えを中心に、「幼少期」「少年期」「大人に向けて」と、どのように吃音とつき合ってきたかについてお話いただきました。「温かく接してくれる人が大きな支えになったこと」や「自己解決の道を見つけていく必要性」についてなど、吃音の当事者の目線からの貴重なお話で、参加者皆さんに感銘を与えていました。

○ 語り合い(グループ交流)

子どもの年齢が近いグループに分かれて、日ごろ悩んでいることや家族の関わり方について語り合いました。



＜参加者の感想＞

- ・悩みを解決することができました。 ・今後の励みになりました。
- ・保護者同士がつながれる場があることがすばらしい。
- ・体験談を聞き、もっと子どもに寄り添った関わりをしていきたいと思いました。
- ・どんなに忙しくても、最後まで子どもの話を聞いて気持ちの受け皿(よりどころ)になってあげたい。



この会は今年度で20回目となりました。吃音をよりよく理解することが、子どもたちの笑顔、そして将来につながることを願って、今後も開催していきます。